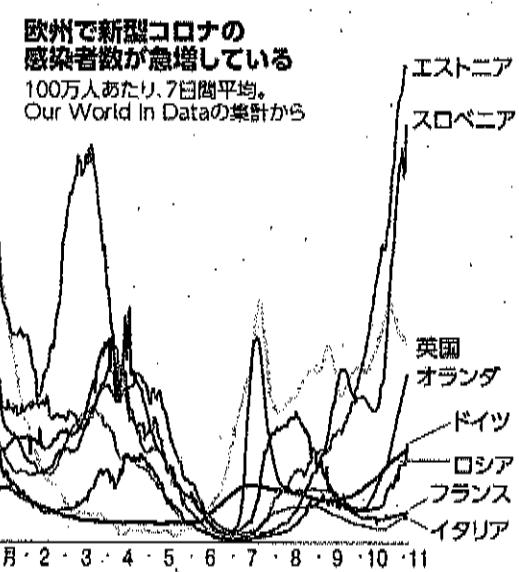


冬を迎える欧洲 感染増

欧洲で再び新型コロナウイルスの感染者数が急増している。世界保健機関（WHO）は、ロシアや中央アジアを含む欧洲管内15カ国で10月最終週の新規感染者数、死者数がともに世界の約5割を占め、再び感染の「震源地」となったと警戒を強める。ワクチン接種が進んでも悪化に歴じた国もあり、ドイツは希望者全員に3回目の「マースター接種」をする方針を決めた。

WHO欧洲地域事務局によると、10月最終週は管内の新規感染者数が約180万人、死者数が約2万4千人だった。クリーチ事務局長は「我々は再び（感染の）震源地にいる」と述べ、来年2月までにあと50万人が死んでしまう可能性があると警告した。

WHOが懸念するのが接種率の伸び悩み。管内で接種が完了した人は40%で、バルト諸国や中東欧で接種率が低いといい。100万あたりの1日の新規感染



接種7割の独「3回目」急ぐ

者数はエストニアやスロベニアでは一千人を上回る。接種者に早急に接種するよう日本の人口に換算すれば12万人を超える事態だ。

ただ、接種完了が約67%のドイツも感染拡大のペースが加速している。5日発表の1日の新規感染者数は3万7120人となり連続で過去最多となつた。寒くなり、換気の悪い室内での時間が増えたことも、1月のピークの約4割まで過去最多となつた。寒く3回目の追加接種についても、8月末に始めた60歳以上の方に加え、2回目からのみられるが、政府は接種率

が伸びる。

一方、フランスやイタリアでは感染はそこまで広がっていない。高い接種率に加えて理由に挙げられるのが、接種や陰性を証明する、いわゆる「ワクチンパスポート」の活用状況だ。

アでは感染はそこまで広がっていない。高い接種率に必要だが、確認されないことが多い。ショバーン保健省は3日の会見で、「ドイツでも飲食店の店内利用などに必要だが、確認されないことがある」と述べた。

（ローマ＝大室一也、ベルリン＝野島淳、パリ＝足田多陽）

仏・伊 ワクチンパスを強化

冬場の感染拡大

日本でも可能性

感覚症対策に詳しい関西福祉大学の勝田吉彰教授（渡航医学）は、日本でも寒くなれば、欧洲と同じ傾向になる可能性があるとう。『体温が下がれば湿度も下がり、気管の粘膜が荒れてウイルスなどが入りやすくなる』。勝田さんによると、WHOの発表では、日本を含むアジア東部でも先週から感染が増え始めたといい。

（日経BP）